

▶ 第26回目となる今回は、大月短期大学 経済科 1年 芦澤美咲さんが、有限会社 勝栄 中村農場 専務取締役 中村由紀子氏 を取材しました。



経営者

有限会社 勝栄 中村農場  
専務取締役  
中村 由紀子 氏

## 『挑戦！ そして成長！』

学生

大月短期大学  
経済科

1年 芦澤 美咲 さん



▶ 学生 会社概要と事業内容についてお聞かせください。

▶ 経営者

結婚をきっかけに主人と起業を思い立ち、野菜の直売所やペットショップなどを経て平成10年に設立しました。当初は養鶏は考えていませんでしたが、ペットを飼い始めた中に鶏がいて、最初は名古屋コーチンを飼いたいと思い県の畜産試験場に相談をしました。そこで山梨県の「甲州地鶏」という鶏の飼育の提案を受けたことから、肉や卵をメインとした養鶏をスタートさせました。現在は、鶏を使った売店や飲食店も経営しています。

弊社の養鶏は、生産性を重視していかに生産コストを低く抑えるかではなく、いかに美味しいものを作るかという考えで行っています。

生き物は環境によって育ち方が変わってしまうので、季節にあわせて餌などを変えて常に同じ品質のものをお客様に提供できるように、プロとして最善を目指し日々試行錯誤しています。

▶ 学生 御社が求める人物像をお聞かせください。

▶ 経営者

売店や飲食店としての接客業ですので、素直で明るく、チームワークを重視し、どんなことにも挑戦するような人材を求めています。また、やりたいことはどんどん挑戦させてあげられる環境も整っていますので、企画力があり実行できる人にはとても良い職場だと思います。

これからの農業を考えた場合に、消費者の求めるものを察知できる力や常にお客様のことを考えながら良いものを生産・販売できる人材になってもらいたいと思います。社内でも常に「サービス業」であることを心がけるよう全スタッフに声

をかけています。

今の学生は、漢字や算数といった一般的な基本知識や挨拶など生きていくための基本的なことが欠けている方が多い気がするのですが、社会人としての基本を身に付けることも努力してもらいたいと思います。

▶ 学生 会社を営む中で、女性としての苦労はありますか？

▶ 経営者

弊社は社長が生産部門を担当し、売店や飲食などの管理は私が行っています。男性と女性の良い面を生かし合って経営することが大事だと考えています。

女性特有の感情的な面を抑えてきめ細やかさを持ってスタッフ一人一人に合わせた指導をすることが大事だと気づきました。また、あまり母性的にならず仕事として割り切るといった面も重要だと感じています。

男女では思考回路が違うので、男性スタッフに指示を出す場合にも、女性スタッフに対する言い方を変えともしっかり伝わるのだなと最近はとても感じています。

取材を終えて…

自分が企業の経営者に取材をするとは考えていなかったために非常に緊張しましたが、同時に貴重な体験ができ、来年度に控えた就職活動を乗り切るための力となりました。この取材を通して、将来の企業に就職するにしても基本的な知識と多様な経験、そして度胸が必要だと強く感じました。

このような機会を設けてくださった中央会の方々、お忙しいにも関わらず時間を割いてくださった中村農場の中村専務様、本当にありがとうございました。今回の経験を生かして、現在の激しい就活の波に吞まれないよう頑張っていきます。

▶ 学生 御社の将来の展望をお聞かせください。

▶ 経営者

6次産業のナンバーワン企業として、心に響く美味しさを提供し「心身ともに豊かな社会を築く」という経営理念があります。農業でも貴金的にも待遇的にも良い職場、地鶏と言ったら中村農場と言われるような会社を目指して従業員と一体となって仕事をしたいと考えています。

弊社には甲州地鶏の肉と卵を使った「本物の親子丼」がありますが、どんなに良いものを作ってもそれだけではメディアを含め誰も関心を示してくれず、生産者として少し意固地になって閉き直っていた時期もありました。そこで、わざわざ来てくれたお客さまに美味しいと言っていただけることに努めたその結果、お客様の口コミのおかげで、弊社がここまで大きく成長できたと思っています。

自分たちの考えている以上に周囲の方は評価してくださっているのだと自覚し、これからも胸を張り、ブランド力を更に上げていこうと考えています。

